

歴博 ぐらしの植物苑だより

「ぐらしの植物苑観察会」

第96回 3月24日(土) 13:30から ぐらしの植物苑

「梅と桃と桜」 澤田和人 [本館研究部情報研究系]

第97回 4月29日(日) 13:30から ぐらしの植物苑

「ぐらしの植物苑と下総の森」 鈴木三男 (東北大学植物園)

今週のみどころ <http://www.rekihaku.ac.jp>

苑内で見られる花：

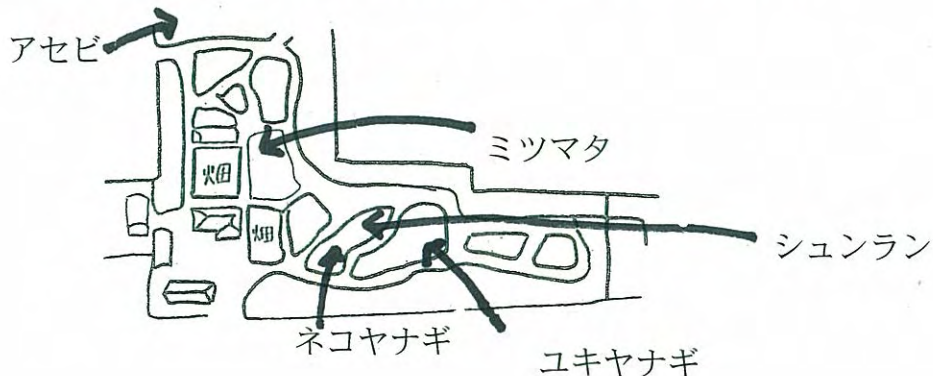
ツバキ・ヒメサザンカ・ヤクシマツバキ・ヤブツバキ、唐梅・紅梅・白梅、ソシンロウバイ、ニオイミツマタ・ミツマタ、ダンコウバイ、スイセン、バイモナバナ、ボケ、ハチジョウキブシ、ネコヤナギなど

ネコヤナギの花：

ネコヤナギは早春に花芽の芽鱗が脱げると、銀色の絹毛に被われたネコのシッポのような花序が現れます。銀毛の間から花糸と紫紅色の葯がみられ、葯が割れると黄色の花粉がこぼれ花序は淡黄色になります。花の移り変わりをみているだけでたのしくなりますが、ネコヤナギ雌雄異株で、花は反向日性といわれ、花序の先端は北を向きます。



苑内は日陰に植わっているのではっきりとわかりませんが、野外で観察して見てください。花屋さんで売っているのはほとんどが雄株です。挿し木をするときには花序をとって挿し木をした法がいいといわれています。



シュンラン (ラン科シュンラン属)

日本で最も普通に見られる地生ランで、耐寒性があり庭や鉢植えで栽培されることが多い。花は普通、淡緑色ですが、変異が多く黄色の強いものや褐紅色のものなどがあります。



ミツマタ (ジンチョウゲ科ミツマタ属)

中国からヒマラヤにかけて分布する、落葉低木で、日本に渡来したのは室町時代といわれている。樹皮の繊維が丈夫で和紙の原料として栽培されている。主要品種として、赤木、青木がある。黄色の花弁のように見えるのは筒形のがくで、おしべは2列に8本あります。



アセビ (ツツジ科アセビ属)

山地の風当たりの強いところに好んで生える常緑の低木。花は壺形でかわいいが、種子にはアセボトキシンという苦味成分があります。苦味成分のために馬酔木の名があります。



ネコヤナギ (ヤナギ科ヤナギ属)

雌雄異株の落葉性の低木で、新枝は黄褐色で細い。花は前年枝につきます。写真は雄花序でおしべは2個、葯は紫紅色で花粉が黄色に見えています。繁殖力が強く、護岸などに植えられたりします。苑内にはイヌコリヤナギもあります。



ユキヤナギ (バラ科シモツケ属)

中国原産の落葉の低木で小さい花が多数咲きます。花壇や生け垣によく植えられています。大雨で増水・水没するような場所にも生育します。花が雪、葉が柳を思わせたところからこの名があり、小米花ともいわれます。

